

## 「首なし石仏」考 首なし羅漢像は廃仏毀釈が主要因か

杉浦正和

### 1. 初めに ～日本寺の首なし羅漢～

2012 年の社会科研修旅行で最も衝撃的だったのは、日本寺の千五百羅漢像の多くが首をつないであったり、首がもげたままの状態であったりしたことである。(図1)で分かるように、首の部分をつないだ跡が残るもの、首のないままで放置されているものが多い。日本寺の見解はパンフレットによると、「鋸山は世界第一の羅漢霊場として遠く海外にも知られています。が、惜しくも明治維新の排仏



図 1 日本寺の千五百羅漢像の首

毀釈以来、荒廃したままで現在に至り、目下『羅漢様お首つなぎ』を初め、全山の復興に努力しております」という現状である。しかし、案内のガイドさんからいただいた資料には、廃仏毀釈よりも迷信・俗信を強調して以下のように述べる。

中には必ず誰かに似た顔の羅漢様があると言われ、もし思う人の顔が有れば、その羅漢様の首を持ってきて供養すれば、願いがかなうという迷信が生まれました。そのため、首なし羅漢がおおいというわけです。

この説明を読み、石仏とはいえ信仰の対象である仏像の首をとるとは、何と不信心な人々が多いのだろうと憤ったのである。

その後、研究紀要のためにいろいろ調べると、首なし羅漢や首なし地蔵が全国各地にあることが分かった。観光ブログが無数にあって写真をとり解説やコメントが入れているので、それらを丁寧に読んでいくだけで、石仏の現状と荒廃理由について人々がどう考えているかが見えてくる。理由として最も多かったのが廃仏毀釈であった。ということで、日本寺の現状を「明治維新後は全山が荒廃し廃仏毀釈や迷信、俗信によって多くの仏像が破壊」とまとめる人もいる<sup>1</sup>。

そこで廃仏毀釈について調べると、当時の記録や解説がネットではあまり得られないものの、興福寺の阿修羅像など非常に有名な仏像さえも、廃仏毀釈で売られたり壊されたり放置されたりしていたことが分かった。穴の中に多くの仏像が入れられた写真もある。しかし、石仏の首だけを壊すような命令や動きについての記録が見つらなかった。堂内の木造仏像を壊したり穴に捨てるのは分かるし、境内に並べてある石仏を売ったり放置したりするのも分かる。しかし、石仏を壊すのであれば蹴倒して放置すればよくて、穴に放り込むのは重くて大変である。廃仏毀釈で首なしになるという説に改めて疑問が湧いた。

壊す人たちのことを考えてみよう。廃仏毀釈の命令が出たとき、多くの民衆はそれまで仏像を信仰してきた人々であった。記録の中には信心深いお婆さんが仏像を隠したという

<sup>1</sup> <http://katuou.web.fc2.com/nihonji.htm>

ものがあった。それが手の平を返したように、石仏を壊す行動に出るものなのだろうかと考えると、やはり廃仏毀釈で石仏の首が折られたことを主因として説明するには疑問が出てくる。こうして首なし石仏の謎の追究を始めた。手法はネット検索が主となったが、予想以上に重要な情報が得られることが分かった。

## 2. 全国の首なし石仏（五百羅漢像）の状態分析

全国に首なしの石仏があることはよく知られている。その多くが五百羅漢像であり、一部は道端や祠に首のない地蔵がそのまま祀られている。無数の観光ブログから五百羅漢像について調べたものが次頁の（表2）である。（首なしの多くが個人ブログであり、問題のないブログの多くは役所関係の公式サイトである。）この表から分かるのは以下である。

五百羅漢像がつくられるのは大半が江戸時代である。主として寄進をした者が僧侶であったり資産家であったりしているけれども、背景として民衆が信仰心から五百羅漢像を切望していたことが予想される。詳しい理由は不明。

五百羅漢像の大半が野外に置かれるか、岩屋に入れられている。雨が当たることを前提にして石仏をつくっている。木造のものは少ない。

廃仏毀釈が激しかった地域では、石仏を損壊する動きのあったことが指摘されている。しかし、記録されたものから説明されることが少ない。

石仏損壊の動きの記述の多くは、倒したり放置したりすることで、首を切断することまで明記してあるものが少ない。記録としては見つけれなかった。

廃仏毀釈運動の激しかったと言われる、薩摩藩や松本藩、富山藩、津和野藩、伊勢の神領などがほとんどなく、唯一高岡市の長慶寺だけがあがっている。しかし、そこで行われたことは像が倒されて放置されたことである。また、三重郡菟野町の大日堂は神領でないものの影響を受けて、石像の首が切られたとの記述がある<sup>2</sup>。

首なしの規模として大きいものの第一が川越市大師喜多院であるが、ほとんどが修復されている。「無頼の徒」は廃仏毀釈を連想させるが、関東大震災の影響もあることが記録から確認できる<sup>3</sup>。また、修復がほとんどされずに放置されている首なし石仏が、藤岡市七輿山古墳の円墳中腹にある羅漢像である。墳丘上にある釈迦三尊の石仏までが首が切られている。もげるというより鋭く切られたという感じのする石仏が多い<sup>4</sup>。しかし、これに対しても「江戸時代の寺と農民の紛争で農民が破壊行為をして、殺伐とした景色に」なったという説明もある<sup>5</sup>。しかし、この根拠が不明である。廃仏毀釈が原因と断言できるまでに至っていないと判断する。

<sup>2</sup> 「明治9年の伊勢暴動により、大日堂はその災に遇って焼失し、その後廃仏棄釈により、大日堂と共に衰微し心なきもののために石像も首を落され、三重の石塔も人手に渡る様な荒廃であった。」三重郡菟野町公式サイト：<http://www.kanko-komono.com/history.html#07>

<sup>3</sup> 「明治維新後『廃仏毀釈運動の中で破壊された』とか、『徳川家の加護がなくなり堂塔伽藍もしだいに荒廃し倒木で破壊された』ため1895～98年に大修理が施されたということ...1923年関東地震では川越市内でも大きな被害が出ました。...当時小学3年生だった川田登志子さんの記録...『喜多院の五百羅漢が落っこっているのを見に行かないか』と友達が呼びに来る。5、6人の仲間と一緒に見に行った。確かに羅漢さんは目茶苦茶倒れて首が転がっていた。中央の高座の大きな仏様も南に横倒しになっていた。『川越朝日』第102号より）[http://www.geocities.jp/obt\\_kk/acgj\\_saitama/sokuhou\\_s2.html](http://www.geocities.jp/obt_kk/acgj_saitama/sokuhou_s2.html)

<sup>4</sup> 「この七輿山古墳の羅漢たちも一体一体全ての首が切断され、まとめて古墳の堀の中に投げ捨てられた」と。<http://sakahara.cocolog-nifty.com/blog/2008/05/post-5900.html>

<sup>5</sup> [http://homepage3.nifty.com/kojikino-angou/tra\\_12.html](http://homepage3.nifty.com/kojikino-angou/tra_12.html)

表 2 全国の五百羅漢像の現状 ～首なし石仏を全体像の中で位置づける～

首なし羅漢データ				
番号	県	場所	寺院	状況
1	埼玉県	川越市	大師喜多院	戦後、無頼(ぶらい)の徒より壊されたお首が四百余り多くが首つなぎされている
			大師喜多院	倒木で破壊された、1895～98年に大修理が施された関東大震災で、羅漢さんは目茶苦茶倒れて首が転がっていた。
2	群馬県	藤岡市	七輿山古墳定福院	この七輿山古墳の羅漢たちも一体一体全ての首が切断され、まとめて古墳の堀の中に投げ捨てられたという。石像そのものを全て破壊してしまうのではなく、あえて首を切断した体部を残すことによって、おそらく人々への見せしめにしたのであろう
			七輿山古墳定福院	七輿山古墳の後円部の一部は削られて五百羅漢が作られました。江戸時代の寺と農民の紛争で農民が破壊行為をして、殺伐とした景色になってしまいました。
3	富山県	高岡市	長慶寺	富山県は鹿児島県と並んで、行きすぎた廃仏毀釈の嵐が吹き荒れた場所として知られています。…五百羅漢は悉く倒され、そのまま放置され……昭和2年のことでした。埋もれ、壊されていた羅漢は全部、発掘、修理され、造成された現在地に移転、安置され 本尊は「桜谷大仏」と呼ばれる大仏でしたが、廃仏毀釈で打ち壊され、現在その頭部だけが残され
4	群馬県	中之条町	高山(たけやま)	「平成の大修復」 修復中
5	福岡県	豊前市	求菩提山宝地院	仏像も、焼かれたり捨てられたりしました。破壊されたり、多宝塔や小さな小屋に押し込んで隠された仏像は数知れなかったと
6	福岡県	瀬高町	清水寺	つなぎ終えられた
7	福岡県	朝倉郡東峰村	岩屋の首なし地蔵(千体地蔵・五百羅漢)	
8	福岡県	太宰府市	宝満山	安置されている羅漢の大半には首が欠けている
9	福岡県	小倉北区	福聚寺境内の北谷、狐岩の場所に	五百羅漢の建立を藩に願い出て、天明5年(1785年)許可があり同年9月に石仏群の一部が完成しました…大半の像が、首を折られています
各地の五百羅漢				
番号	県	場所	寺院	状況 歴史
1	大分県	耶馬溪	羅漢寺	十六羅漢、千体地蔵などいれど実に3770体の石仏が並んでいます 延文四年(1359年)逆流建順(ぎゃくりゅうけんじゅん)という偉僧が、昭覚禪師(しょうかくぜんじ)とともに、わずか1年で700余体の石像物を建造しました。
2	大分県	宇佐市	東光寺	安政6年(1859)、15代住職道琳が干害に苦しむ農民を救いたいと、当時著名だった日出の石工に制作を依頼したことが始まりで、明治15年(1883)までの24年間に渡って521体もの羅漢像を彫り上げました。
3	大分県	宇佐市	東光寺	安政6年(1859年)から約23年の歳月をかけて538体の羅漢石像を完成させた
4	東京都	目黒区天恩山	五百羅漢寺	元禄時代に松雲元慶禪師が、江戸の町を托鉢して集めた浄財をもとに、十数年の歳月をかけて作りあげた
5	岩手県	盛岡市	報恩寺	1731年(享保16)、報恩寺代17世和尚が、大願主として造立、4年後に完成した
6	熊本県	熊本市	雲巖禅寺	200年前、24年の歳月をかけて奉納した
7	島根県	石見銀山遺跡	羅漢寺	二十五年かかって明和三年(1766)3月に完成
8	神奈川県	小田原市	玉宝寺	宝暦7年(1757)に五百羅漢像を完成 五百羅漢像は嘉永、安政の大地震で損失し、万延年間(1860?1861)に補足、補修が行われて、現在に至って
9	神奈川県	足柄下郡箱根町仙石原	長安寺	五百羅漢は昭和60年より建立がはじまり
10	京都	京都市伏見区	石峰寺	寛政年鑑に画家伊藤若冲が当寺と草庵を結び…五百羅漢を作成
11	岩手県	遠野市		江戸時代天明期に刻まれた石像群
12	和歌山県	和歌山市	五百羅漢寺	これらは1837年から5年ほどかけて御殿の女中や紀州の証人が先祖供養のために奉納した仏像です。五百 といいますが、実際に存在しているのは450体ほど。すべて木造の羅漢さんです。
13	三重県	三重郡菟野町	大日堂の境内	竹成五百羅漢…嘉永5年(1852年)2月、竹成出身の僧照空(神瑞)が、大日堂の境内に15年の歳月を費やして完成させたと伝えているが…伊勢暴動によって大日堂が焼かれ、廃仏毀釈の影響で、破壊されたり、持ち去られるような時期があった 大日堂と共に衰微し心なきものために石像も首を落され、三重の石塔も人手に渡る様な荒廃であった
14	兵庫県	加西市	羅漢寺	境内北面に約450体が鎮座。制作者、制作年代不明だが、慶長年間ではないかといわれている。



### 3. 地震で倒れて首が折れたのではないか（地震倒壊仮説）

首なし石仏について考察した書籍・文献は、小川直之著『歴史民俗論ノート 地蔵・斬首・日記』と『日本の石仏 140号』くらいしかない。前者は道祖神像について詳しいデータがある。後者も、首なし石仏自体を研究したものではないことが分かった。後者には、「石仏の破損や首なし地蔵を単なる子供の悪戯と見過ごさず、廃仏毀釈の影響を考えてもよいと思う」とあり、専門家は一般人と違って廃仏毀釈が原因で首なしになったとあまり見ていないことが分かる。また、七興山に関しては次の指摘がある<sup>6</sup>。

七興山古墳の例などは当時の廃仏毀釈の影響だけではなさそうである。しかも欠いた首がほとんど転がっていない。どこかへ持ち去られているのである。また、廃仏毀釈なら首以外に胴体までも破却するはずである。…このことについて、最近小川直之氏が「斬首の民俗・廃仏毀釈と石仏」の小論を発表しているので、概要を記すとつぎのようである。

日本には曝首の風習があり、古くから生首は軍神への生贄としてきた。また、1月14日のドンドン焼きの帰りに月に自分の姿を映じてその影に頸がはっきり見えれば吉、よく見えないときには凶といわれた。首のない像に石をあげると首がつながり復活できると考えられていた。長崎県壱岐島では、首のない地蔵に海から拾ってきた石をあげ頭とし、守り神としてきたという。

藤岡市の首なし羅漢のなかにも首の代わりに小石があげられたのが数基ある。復活を願ったのであろうか。廃仏毀釈の難にあっただけではなさそうである。

廃仏毀釈の影響を想定するには胴体の破壊が重要なポイントと思われる。破壊されたケースではバラバラに放置されることになる。そうしたケースが写真に撮られているが<sup>7</sup>、周囲を整理をされたためなのか日本寺や七興山古墳では見られない。また、後半の曝首の風習説は信じがたい。人間を相手にしているわけではないので、石仏の首を落とすことに特別の意味を見いだすことができない。よく連想されるのがイスラム教徒の石仏破壊であるが、あれも巨大な磨崖仏の破壊として意味があるが、シルクロードにあるベゼクリク千仏洞のように、多数ある仏を描いた壁画や塑像の首部分がイスラム教徒によって破壊された。要は粉々にするのが難しかったためであろう。とすると、五百羅漢像は首を折るのでなく、簡単に胴体を含めて破壊できたはずである。

こうした観点から、荒れ狂った民衆が石仏を襲って首を折るという状況が想像できなかった<sup>8</sup>。また、一般民衆が石仏を取り除く仕事を行ったとしても<sup>9</sup>、首だけ折るのは先に述べた観点から想像できなかった。他の理由が考えられないかとネットの記述を追って見つけた意見が、地震などで倒れたときに首が折れたという仮説であり、これを最大仮説と考えた<sup>10</sup>。先の関東大震災で喜多院五百羅漢の首が落ちたという事実が傍証になるとと思われる。

<sup>6</sup> <http://kamituke.web.fc2.com/page143.html>

<sup>7</sup> 越前禅定道の石仏。廃仏毀 <http://www.env.go.jp/park/hakusan/photo/view.php?l=16>

<sup>8</sup> 廃仏毀釈運動に関わったのは、寺院に配下におかれていて不満が募った神官が率先したと言われている。

<sup>9</sup> 「埼玉県北部の当時の様子を知るには、『廃仏毀釈くどき』という明治二年に作られた俗謡が参考になる。…村の全戸百十軒が総出で石仏や仏式の石碑など全てを取り除き、そのあとを浄めて霊屋を作り、榊を植えて霊を移して祀るというのである。」『日本の石仏 140号』28-29pp

<sup>10</sup> 「羅漢は人間が故意にハンマーで叩き割ったのではなく、倒れた際に自分の重さで首が落ちたものです。」

ただしこの仮説の問題点は、首の落ちる比率がどの程度かということである。

この地震倒壊仮説を日本寺に当てはめると、1855 年に発生した安政の大地震や関東大震災など多くの被害に遭っていると思われた<sup>11</sup>。石仏が置かれた場所も岩の少しへこんだところであり、きわめて落ちやすいと言える。今は観光用の道がしっかりしているが、長い間荒れていたのもっと危険だったのではないかと<sup>12</sup>。しかし、この地震倒壊仮説に大きな弱点のあることが分かった。それは、2004 年や 2007 年、2011 年の震災による福島や新潟の石仏被害についての記録である。「震央付近の石仏は一瞬にして飛び跳ね、転がり、不運なものは真っ二つに割れた。」「台座から落ち、2 基とも破損した。修復不可能な状態となり、瓦礫と化した。」「大蔵寺高原のなだらかな傾斜地に建立されてある 70 余体の石仏が、4 体を残してすべて前向きに、揃って下方に倒れていた。隣接する神社は倒壊寸前」などという記述があるものの<sup>13</sup>、この結果首がなくなった石仏が出てきたという記述が皆無だったことである。つまり、こうしたケースがあったとしても、多数の石仏の首が折れることの説明として十分とは言えない可能性が高い。ただし、日本寺の場合、新潟などと違って草や雪がなく岩そのものであるため、地震倒壊で首の折れる可能性が高いと言えるので、この仮説を完全に破棄することはできない。

#### 4．廃仏毀釈の事実からの推測（苗木藩の事例から）

明治新政府が当初めざしたのは、仏教と神道との習合を分離させ、神道を国教の地位に据えること、つまり仏教から分離した神道を重んずることであった。そのため、慶応 4 年(1868 年)3 月 13 日次の布告を出す。「あまねく天下の諸神社神主禰宜祝神部に至るまで、向後右神祇官附属に仰せ渡され候」、すなわち、神道を仏教支配下から分離し政府の神祇官に専属するという方針だった。そして、同月 28 日にいわゆる「神仏判然の御沙汰」と称する次のような布告を出す。「仏像を社前に掛け、あるいは鰐口、梵鐘、仏具等の類差し置き候分は、早々取り除き申すべき事」と。ところが、これで神官たちの積年の鬱憤が爆発して、必要以上の仏像仏具を破壊・焼却となることがあった。そこで、同年 4 月 10 日、次のような布告を発する。「厚く顧慮して緩急の宜しきを考え、穏やかに取り扱うべきは勿論... 神社中にこれあり候仏像仏具等取り除き候処分たりとも、いちいち取り計らいの向き伺い出、御指図受けるべく候」と、暴発を抑える方針を明示するのである<sup>14</sup>。

暴発、すなわち廃仏毀釈へと突き進んだケースとして美濃苗木藩の事例が有名であり、これを渡辺浩一氏は『日本の石仏 140 号』で紹介している<sup>15</sup>。苗木藩では藩士をはじめ領民すべてを神葬祭に改宗させたうえに、領内すべての寺院を廃寺させた。明治 3 年(1890 年)8 月 15 日に「村々の内、辻堂を毀ち、仏名經典等彫付候石碑類は掘埋め申すべく候」という

---

<http://blogs.yahoo.co.jp/yunitake2000/46474116.html> この根拠の一つに石仏の風化があり、房州石が風化に弱いとある。しかし、羅漢像が置かれた奇岩霊洞は風化されているが、日本寺はパンフレットで、羅漢像が「伊豆から運ばれた石材」に彫刻されたとしている。

<sup>11</sup> 1703 年の元禄の大地震が関東大震災をはるかに上回る規模と言われているので、この影響も考えたいが、この大地震は五百羅漢像制作前の出来事であった。

<sup>12</sup> 公式サイトに「日本寺の石段は長年の風雨にさらされ、参拝者にとって歩きづらく危険な状態になりました。建物の修復に先立ち、昭和 56 年に石段の再整備を実施しました。」

<sup>13</sup> 星野紀子、渡邊三四一、桑原和位「地震と石仏」『日本の石仏 140 号』35-44pp

<sup>14</sup> この章の多くでは、東白川村アーカイブス内の『東白川村の廃仏毀釈』の説明を参考にしている。

<sup>15</sup> 「廃仏毀釈と石仏の受難・美濃苗木藩の事例から」『日本の石仏 140 号』4-12pp

命令が出ている。苗木藩でこうした強要に至った背景には国学派人材の登用があり、この地域では現在もほとんどの家が神葬祭による葬儀を行っているほどである。美濃苗木藩における廃仏毀釈で起こったことを確認しながら、首なし石仏の推測を深めてみよう<sup>16</sup>。

同年 8 月 27 日はさらに「堂塔並びに石仏木像等取り払い、焼き捨てあるいは掘り埋め申すべき事」と命ぜられる。こうして苗木藩では「阿弥陀堂、観音堂、地蔵堂、薬師堂などが数多くありましたが、その多くは壊され、仏像や仏具は焼かれたり、土中に埋められたり、あるいは他領へ売り払われた」「路傍に建てられた石仏、名号塔、供養塔なども、その主なものは打ち割られたり、引き倒されたりしました。神土村の常楽寺の山門に建てられていた名号塔が四つに割られて、池の端や畑の片隅に伏せ込まれたのもこのときのことです。」この常楽寺の四つ割の南無阿弥陀仏碑が非常に有名になる。それは、粉々に砕けという藩命に対して、他藩高遠の石工傳蔵が「仏の顔を踏みにじめるようなことはできない」といって節理に従って石碑を 4 つに割り、畑の積石や裏の池の脇石などとして名号の文字が見えないように伏せ込んだのだ。村内に悪疫のはやった 1935 年、「名号塔埋没のたたり」といううわさが流れたので、「四散した石塊を集め、一週間に及ぶ作業の末、現在地に再建」したのである。また、別な話もある。

この 8 月 27 日に茶菴堂では、「地蔵はじめ、三十三番の観音、薬師、弘法大師の像などを取り除きました。しかし、だれもそれを預かるという人がありません。仕方がないので 3 体ずつ割あって組中みんなで預かること」となる。そして翌日「西の方に建ててあった六地蔵、十三仏、南無阿弥陀仏などの石仏を残らず倒し、薦(FE)に包んで置きました<sup>17</sup>。」さらに、その他の様々な信仰の対象物として親しまれた仏像や仏具が別のところにこっそりと移されて残っていることが分かったのである。例えば、西国三十三所観世音菩薩像が、別の地域、安楽寺に「一体として漏れることなく、そして全部の観音像が」完全無傷で移されている。石造の六地蔵尊にも同様の話がある。また木造の千躰地蔵尊像は、村人が川に流すところに来た別村の者が千体の内五百体を自宅に持ち帰って保管するのである<sup>18</sup>。

つまり、この廃仏毀釈の激しかった苗木藩においても、一般民衆が石仏を粉々にするような行為をするのが難しかったことである。土に埋めたり、各戸で預かり、倒して薦に包んで置いた、完全な放置でなかったのである。もちろん、鋭利に切られた跡のある首なし石仏もあるので、そうした無残な壊し方をした地域もあると思われるが、それが広い地域にあったとは言えないことが苗木藩の事例から予想できるのである。

## 5. 残っている仮説を検討する

こうして考えると、千葉県において廃仏毀釈によって多数の首が折られることがありうるのか、と当然の疑問が出てくるであろう。『千葉県の歴史』はこう述べる<sup>19</sup>。

千葉県では、香取神宮別当金剛宝寺が堂塔を取り壊し、仏像・教典の移管や売却などにより解体してしまった例もあるが、神社名の改称・仏具の撤去などが各地で実行された程度にとどまった。

<sup>16</sup> 「小藩ながら苗木藩ほど徹底したところは全国に類がなく、わが国仏教史上特筆すべき事件でした」と、『東白川村の廃仏毀釈』は述べる。

<sup>17</sup> <http://www.vill.higashishirakawa.gifu.jp/archive/haibutu/053.html>

<sup>18</sup> <http://www.vill.higashishirakawa.gifu.jp/archive/haibutu/129.html>

<sup>19</sup> 『千葉県の歴史 資料編 近現代 7 (社会・教育・文化 1)』 27p

この香取神宮は神道の拠点で、当然ながら廃仏毀釈運動が強かったのであるが、その香取神宮の仏像に関しても苗木藩と似た次のような話がある。すなわち、簡単に全てを壊すことがなかったということである<sup>20</sup>。

牧野の古刹観福寺が所蔵する懸仏 4 軀（釈迦如来坐像・十一面観音菩薩坐像・地藏菩薩坐像・薬師如来坐像）は、鎌倉期懸仏の最高傑作として広く知られています。

これらの仏像は、神仏分離令により香取神宮から取り出され、市人に売られてまさに吹き潰されんとするところを「おいたわしや」とこれを買求めた人が台座などを荘厳して、明治 2 年（1869）の初秋に観福寺に納めたとされています。

とすると、一体日本寺の多数の首なし石仏はなぜ生じたのか。ここで考えねばならないのが、第 1 章であげた理由の一つである俗信や迷信である。首なし石仏の理由として俗信や迷信をあげているケースが少ない中で、日本寺に関してはそれが多いのである。

例えば、「首なし羅漢の伝説」として鋸南町の公式サイトで以下のように書かれる<sup>21</sup>。

いつの頃からか、この羅漢様の中には、必ず自分の思う人に似た首があり、誰にも知られずその首を取ってきてひそかに供養すると、願い事がかなうという迷信が生まれました。そのため羅漢様の首が少しつつ無くなるようになったのです。このような迷信が生まれたのは、次のようなことがあったからです。

吉浜の庄屋に奉公する茂太郎は、まめまめしく働くうちに庄屋の娘に可愛がられるようになりまし。茂太郎も娘のことをひそかに思っていました。ある年、庄屋の家では父母と乳母がたて続けに亡くなり、娘は悲しみのあまり病気になってしまいました。

茂太郎が一生懸命看病してもいっこうに良くなりません。

ある日、娘は、茂太郎を呼んで、鋸山の羅漢様の中から 3 人に似た顔をさがして持ってきてくれるよう頼みました。

茂太郎は、その夜、鋸山に行き、こっそり 3 体の羅漢様の首を取ってきてしまったのです。しかし、あとでこのことがばれて、茂太郎は娘と引き離されて、清澄山へと預けられてしまいました。

このことがいろいろ変化して伝えられて、首なし羅漢の迷信が生まれたと言います。

ここで最大の問題は、この茂太郎の話が何か伝説のようなものでなくて、1913 年～1941 年の間新聞に連載された有名な中里介山作の長編時代小説である『大菩薩峠』から来ていることで、「安房の国」の巻に以下の記述がある<sup>22</sup>。

「安房の国、清澄の茂太郎は、幼い時に父母に別れ、土地の庄屋に引取られ、いろいろと憂き艱難、朝あしたは山、夕べは磯、木を運んだり汐しおを汲んだり、まめまめしく働くうちに、庄屋のお嬢さんに可愛がられ、お嬢さんの頼みで、鋸山は保田山

<sup>20</sup> <http://www.city.katori.lg.jp/05sightseeing/kyouiku/bunkazai/b05f.html>

<sup>21</sup> <http://www.town.kyonan.chiba.jp/kyonan/tyouhou-rekisi/rekisisiryoukan1.htm>

<sup>22</sup> [http://www.aozora.gr.jp/cards/000283/files/4339\\_8287.html](http://www.aozora.gr.jp/cards/000283/files/4339_8287.html)



日本寺の、千二百羅漢様の、御首を盗んだばかりで、お嬢さんと引分けられ、…」

小説が流行ってそこで語られたことが俗信として広がった、ということが考えられないことではない。日本寺はそのように考えているようである。しかも一つの可能性がある。それは、この話が単なる小説家の創造したものでなくて、地域の俗信から生まれてきた可能性である。中里介山は「安房の国」の巻で以下のようにも書いている<sup>23</sup>。

最奇の人たちが炭問屋の主人を中に置いての房州話となりました。

その話のうちで最も多く一座の興味を惹いたのは、鋸山の日本寺の千二百羅漢の話でありました。その千二百羅漢のうちには必ず自分の思う人に似た首がある。誰にも知られないようにその首を取って来て、ひそかに供養すると願い事が叶かなうという迷信から、近頃はしきりにあの羅漢様の首がなくなるという話が、誰やらの口から語り出されると、一座の興を湧かせます。

羅漢様の首を盗む者のうちには、妙齡の乙女もある。血の気に燃え立つ青年もある。わが子を失うて、その悲しみに堪えやらぬ母親もある。最愛の妻を失うた夫、夫を失うた妻もある。そうして一旦盗んで来た首をひそかに供養して、更に新しい胴体をつけて、また元へ戻すと、生ける人ならばその思いが叶い、死んだものならばその魂が浮ぶ……という話が興に乗った時分には、もう日が暮れて風がようやく強く、船が著しく揺れ出したように思われるけれど、話の興に乗った一座の人々は、それをさのみ気にする様子もなく、……（下線は引用者による）

この部分には、先の小川直之氏の斬首研究が関連するかもしれないと思われるものが入っている。いずれにしろ、答はまだ見えない。日本寺にある史料の分析、特に重要な「羅漢様お首つなぎ」の資料を含めて、追究をしばらく続けたいと思っている。そして、日本寺の首なし石仏に関する当面の答は、地震倒壊仮説と俗信仮説、一部の廃仏毀釈損壊仮説という複合要因があったとしておきたい。

（参考サイト）

- ・鋸山日本寺の公式サイト <http://www.nihonji.jp/index.html>
- ・東白川村アーカイブス内の『東白川村の廃仏毀釈』  
<http://www.vill.higashishirakawa.gifu.jp/archive/haibutu/>  
（『東白川村の廃仏毀釈』：ふるさとシリーズ、東白川村教育委員会、2002.11、78p をアップしたものと思われる。（[http://www.d1.dion.ne.jp/~s\\_minaga/b\\_naegi.htm](http://www.d1.dion.ne.jp/~s_minaga/b_naegi.htm)）
- ・美濃苗木藩における廃仏毀釈 [http://www.d1.dion.ne.jp/~s\\_minaga/b\\_naegi.htm](http://www.d1.dion.ne.jp/~s_minaga/b_naegi.htm)

（参考文献）

- ・日本寺発行のパンフレット
- ・『日本の石仏 140号』（日本石仏協会）、2011年「特集 石仏の受難」
- ・小川直之『歴史民俗論ノート 地蔵・斬首・日記』1996年、岩田書院

<sup>23</sup> <http://www.aozora.gr.jp/cards/000283/card2934.html>